

年齢区分のについて

データの比較性を高めるため、年齢区分は可能な限り、統一したいと考えています。以下に年齢区分を示します。ただし、各調査において別の方法で区分することに価値があると認められる場合にはそのようにしていただいても構いません。その場合は区分方法について、編集委員会と相談になる可能性をご承知おきください。

【年齢区分】

年齢区分は以下でお願いします。

- 子ども（0歳から高校生）：幼児、小学生低学年（1-3年生）、小学生高学年（4-6年生）、中学生、高校生
- 成人（18-64歳）：18-39歳、40-64歳
- 高齢者（65歳-）：65-74歳、75歳以上

18歳を高校生とするか、成人とするかは調査の特性に応じてご判断ください。なお、一つのカテゴリー内の人数が少なくなる場合でも、必ずこの区分での報告をお願いします。統合論文において有益な情報になる可能性があるからです。人数が極端に少ない場合は、著者と編集委員会で扱いを協議したいと思います。

各区分（子ども、成人、高齢者）内に、さらに細分化した年齢区分を行いたい場合は編集委員会にご相談ください。例えば、超高齢者（85歳以上）のサンプルが十分にある場合などが相当します。